

## ヒグマによる人身事故発生状況

2017年1例目

項目	内容	
発生日時	平成 29 年 4 月 16 日 午前 8 時 25 分	
発生場所及び付近状況	住 所	川上郡標茶町塘路原野
	付近の状況	被害者は、ミズナラ等の広葉樹の二次林の斜面で発見され、トドマツの人工林が隣接している。下層植生はギョウジャニンニクが斜面全体に見られる。
被害者情報	居住市町村	阿寒郡鶴居村在住
	年齢・性別 被害の状況	54 才・男性 重傷
	鳴り物の携帯	野外活動中、絶え間なく口笛を吹いていた。持参していた鈴は、しゃがんで山菜採りをしていたので、鳴らない状態であった。
発生状況	被害者の行動	山菜採り（ギョウジャニンニク）目的の単独行動
	発生時間帯	早朝
加害個体の特徴	行動形態	仔連れ
	痕跡	足跡は発見できず。 糞は昨年のもと思われるシカの毛が入った古いものを確認。 メス（母グマ）と思われるが、個体識別は不可
	逃避行動等	ハンターによる搜索の結果、付近には見当たらず、逃避した模様。
対応状況	加害個体への対応	ハンターによるパトロール実施（5月末まで）
	住民への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該林道を通行止め（6月末まで）</li> <li>・付近で作業していた森林作業員、山菜採り（約 30 名）に対し下山依頼（警察）</li> <li>・林道入り口に注意喚起看板設置</li> <li>・学校や地域住民に対し、注意喚起</li> </ul>
考察	発生要因	早朝に単独行動で、携帯していた鈴は鳴らない状態だったが、絶えず口笛を吹いて自己の存在を知らせていたにもかかわらず、仔連れの母グマが接近したため、樹上に逃げようとしたが攻撃された。突然の遭遇による母グマの仔グマ防衛とするだけでは説明できない事例。
	対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山菜採りへの注意喚起</li> <li>・山菜採りの立ち入り規制</li> <li>・積極的な捕獲</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 27 年 1 月 26 日に発生した枝打ち中の林業作業員が死亡した人身被害現場から南南東に 1.2km 離れた場所であった。（この距離は、同一メス個体の行動圏の範囲に含まれると考えられる。）</li> </ul>	

## ヒグマによる人身事故発生状況

2017年2例目

項目	内容	
発生日時	平成29年10月3日午前（推定） ※10月4日午前9時54分被害者発見	
発生場所及び付近状況	住 所	白糠郡白糠町茶路基線無番地
	付近の状況	被害者発見場所は、農地に隣接する河畔林であり、事故発生当時は、1メートルくらいの草丈であった。付近にはクマが寝ていたと思われる跡が確認された。 農地には台風による倒伏で収穫できずに放置された農作物があった。
被害者情報	居住市町村	白糠町在住
	年齢・性別 被害の状況	73才・男性 死亡
	鳴り物の携帯	鈴やラジオなどの鳴り物は、携帯していなかった模様。
発生状況	被害者の行動	キノコ採り目的で、単独行動
	発生時間帯	早朝（推定）
加害個体の特徴	行動形態	単独個体
	痕跡	前掌幅：18cm 足跡幅と回収した糞からDNAを解析した結果、オスと断定。 体毛、唾液からはDNAの解析不可。
	逃避行動等	ハンターによる搜索の結果、付近には見当たらず、逃避した模様。
対応状況	加害個体への対応	ハンターによるパトロール実施（10月11日まで） ※シカ駆除にあわせ、定期的にパトロール実施中
	住民への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場付近に注意喚起看板設置（10基）</li> <li>・役場広報車により注意喚起</li> <li>・現場付近5町内会全24戸に注意文書を訪問配布</li> <li>・農協、森林組合等に情報提供し共有</li> <li>・町ホームページによる周知</li> </ul>
考 察	発生要因	単独で早朝に農地に隣接する河畔林でキノコを探していたところ、倒伏した農作物を採餌するために寝ていたヒグマと遭遇し、攻撃を受けたものと推察。
	対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キノコ採りへの注意喚起</li> <li>・柵の設置などの被害防止対策</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農地は繰り返しヒグマによる食害を受けていたが、電柵などによる防除はなされていなかった。また、古い恒久シカ柵が設置されていたが、洪水により破損していた。</li> <li>・10月6日に白糠町上庶路で発生したヒグマによる人身事故の加害個体は、仔連れの母グマであることから、同一個体の可能性はない。</li> </ul>	

## ヒグマによる人身事故発生状況

2017年3例目

項目	内容	
発生日時	平成 29 年 10 月 6 日 午前 8 時 00 分	
発生場所及び付近状況	住 所	白糠郡白糠町庶路基線オシツクシ
	付近の状況	
被害者情報	居住市町村	釧路市阿寒町在住
	年齢・性別 被害の状況	60 才・男性 軽傷
	鳴り物の携帯	シカ猟のガイドとして入猟しており、鳴り物は携帯していないと推察される。(被害者からの聞き取りを行っていない。)
発生状況	被害者の行動	狩猟ガイド(神奈川県在住の狩猟者 1 名のガイド)
	発生時間帯	早朝
加害個体の特徴	行動形態	仔連れ
	痕跡	捕獲個体の検体回収。 体毛、皮膚から採取した遺伝子によりメスと断定。
	逃避行動等	同行の狩猟者が射殺。
対応状況	加害個体への対応	・加害個体は捕獲されたが、連れていた個体は当歳の子グマであり、危険性が低いことから捜索予定なし。
	住民への対応	①4 日の事故を受けて住民へは既に注意喚起を行っていること、②山中であること、③狩猟による事故であることから、新たな広報活動等は行わない。
考察	発生要因	エゾシカ猟を目的に狩猟者 1 名とガイド 1 名の 2 名で入山したところ、ヒグマ(親子)を発見し、狩猟者が母グマに発砲。一旦現場を離れ、約 2 時間後にガイドが倒れている母グマに近づいたところ死んでおらず、反撃されたものであり、止め刺しを撃つ前に不用意に近づいたことが要因。
	対策	・狩猟者(ガイド)への注意喚起
その他	・平成 29 年 10 月 4 日に白糠町茶路基線で発生したキノコ採り中の男性が死亡した人身被害事例はオスの個体と断定されており、約 9km 離れた今回の事例とは別の個体と断定。	

## ヒグマによる人身事故発生状況

2017年4例目

項目	内容	
発生日時	平成29年10月9日 午後3時45分	
発生場所及び付近状況	住所	斜里郡斜里町字朱円東（東八線）
	付近の状況	発生場所周辺は農地であり、付近に建設会社の土場や防風林（幅約3m、下層植生は高さ80~90cmのササ）などがある。
被害者情報	居住市町村	斜里郡斜里町在住
	年齢・性別 被害の状況	70才・男性 負傷（右顔面殴打、左脚噛みつき）
	鳴り物の携帯	なし（クマ駆除）
発生状況	被害者の行動	クマ駆除（出沒通報に対し3名で対応）
	発生時間帯	日中（午後）
加害個体の特徴	行動形態	加害個体はメス成獣（5才以上）であるが、同一箇所でおス（推定2才）が捕獲されており、親子関係について、北大獣医学部における遺伝子解析結果、血縁関係はないことが判明。
	痕跡	捕獲個体2頭回収
	逃避行動等	猟犬の行動から、もう1頭仔グマがいた可能性もあるが、姿・足跡は確認されていない。
対応状況	加害個体への対応	加害個体捕獲（メス：推定年齢5才以上）
	住民への対応	—
考察	発生要因	農地に近接している建設会社の土場で目撃されたヒグマが逃走し、農地に囲まれ孤立した笹藪に潜んでいたところを、出動した3名のハンターが放った猟犬に吠えられ、小型のヒグマ1頭が目撃され捕獲した。 その後、道路を東方向へ横断する別のヒグマが目撃され、小麦畑（秋まき）に残された新しい1頭の足跡を2名が3mほどの間隔で追跡（1名は予想進行方向に先回り）していたところ、防風林から飛び出してきたヒグマに殴打され、発砲したが外れた。さらに同行者が発砲し胴体に命中後再度襲いかかり噛みついてるところを同行者が頸部に銃口を押しつけ発砲し、加害個体は絶命した。 追い詰められたヒグマにより攻撃された事例。
	対策	・捕獲従事者への注意喚起
その他	・十線沢（十線川）沿いの農地では、ヒグマによるビートの食害が継続的に発生していた。	